

Hand Hand in Hand Hand

第34回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン

「ワクチンで、守ろう小さな命。」

12月9日(日)	14:30~15:30	佐賀市	ゆめタウン佐賀、イオンスーパーセンター佐賀店、イオンモール佐賀大和、ベスト電器佐賀大和、ホームワイド佐賀大和、
	15:00~16:00	小城市	バニーズ三日月店
12月16日(日)	14:30~15:30	佐賀市	佐賀玉屋デパート前
		上峰町	イオン上峰ショッピングセンター
12月22日(土)	11:45~12:45	鹿島市	ララベル、スーパーモリナガ、ホームセンターユートク

今年のハンド・イン・ハンドは、3日にわたり11会場で実施しました。天山おろしの強い風の日、お日さまのぬくもりを感じる暖かい日、冷たい小雨の日と色々な空模様でした。園児から小・中学生、引率の皆様、高校生、大学生、ボーイスカウト、カブスカウト、地域のボランティア団体の皆様、高齢者団体の皆様等々、総勢240人にもものぼるボランティアの皆様が参加してくださいました。ボランティアの皆様は、「ユニセフ募金にご協力をお願いしま〜す！」「12円でポリオのワクチンを1回分おくることができま〜す！」「ありがとうございます！」と元気な声で協力を呼びかけました。ボランティアの皆様の熱い思いは、お客様の心に届き、たくさんのご協力をいただきました。

- ・ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、本当にありがとうございました。
- ・事務所には「今年も元気で過ごせたので感謝の気持ちでユニセフへ寄付したい。」「7月豪雨で被害を受けたけど世界の子どもたちのためにも募金したい。」等々ご連絡いただき、ご協力くださる方もいらっしゃいました。
- ・11月と12月の2ヶ月間にわたって実施しました『第34回ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン』での募金総額は、2,480,000円となりましたことをご報告申し上げます。ありがとうございました。

ゆめタウンさが



ボーイスカウト佐賀第1団カブ隊・ビーバー隊の皆さん、ボーイスカウト佐賀第5団の皆さん、そして保護者の方々など、総勢49名の方がボランティアとしてご参加くださり、ゆめタウン佐賀会場は冷たい風を吹き飛ばすほど活気に満ち溢れていました。募金活動終了の15時30分を過ぎ片付けをしている時にも、「先ほど入れられなかったの・・・」と募金を握りしめてお持ちくださったお客さまもいらっしゃいました。ゆめタウン佐賀会場にてご協力いただいた募金は48,058円でした。



イオンスーパーセンター佐賀店会場

福岡県柳川市内の小学生・中学生・高校生・保護者の方・引率の先生・教育委員会の方など30名のボランティアさんが貸し切りバスで会場までおいでくださいました。ボランティアさんたちは大きな声で「ユニセフ募金にご協力をお願いします！」「ポリオワクチンをおくるために、よろしくお願いします！」とお客様に呼び掛けました。「寒いのにご苦労様」と労いの言葉を添えて募金して下さる方もいらっしゃいました。

活動終了後、子どもたちから「募金箱にお金をいれてもらうことができうれしかったです。」「一緒に募金をしている人と仲よくなれてよかったです。」などの声が聞かれました。イオンスーパーセンター佐賀店での募金は34,543円でした。



佐賀大和会場 大和会場（イオンモール佐賀大和、ホームワイド佐賀大和、ベスト電器佐賀大和）では、大和中学校・城北中学校の生徒さんたちなど60名のボランティアさんが参加くださいました。

中学生のみなさんは元気な声でお買物のお客様に「世界の子どもたちにワクチンをおくりましょう！」「ワクチンを待っている子どもたちがいます。ご協力をお願いします。」と呼びかけました。中学生のみなさんの熱い思いがお客様の心に届き、61,805円もの募金をお預かりしました。



パニーズ三日月店

街頭募金活動には、三日月中学校生徒会の皆さんら総勢17名の参加がありました。休むことなく順番に一人ずつ募金を呼びかけたおかげで、駐車場の端の方からお金を握りしめて走ってきたお子さんや、車を止めて運転席から募金の手を差し伸べらてくださる方もあり、多くの方からたくさんのご協力をいただきました。

北風は少しの間休憩し、お日様が味方してくれ身も心も温かい気持ちでいっぱいになりました。パニーズ三日月店での募金は14,251円でした。





佐賀玉屋デパート前

参加人数は総勢17名人でした。毎年参加していただいている循誘ボランティアの方々、同じ顔触れがそろうといっそう嬉しいですね。もう5年連続参加の小学生は、募金の呼びかけ方がとっても上手でした。また目の不自由な方が、私たちの声のする方へ白杖を使いながら近づいてこられ募金とともに暖かい声をかけてくださいました。たくさんのご協力ありがとうございました。佐賀玉屋前での募金は39,504円でした。

イオン上峰ショッピングセンター

上峰町立上峰小学校ボランティア委員会のみなさんと先生方がご参加くださいました。ボランティアさんたちは元気な声で「ユニセフ募金にご協力をお願いします！」「100円で5回分のはしかのワクチンをおくることができます！」とお客様に呼び掛けました。

三カ所に分かれて立ちましたが、毎年それぞれの場所の全ての子どもたちの募金箱に用意したお金を入れてくださる方がいらっやって、ボランティアの子どもたちを喜ばせてくださいました。

イオン上峰ショッピングセンターでの募金は33,014円でした。



鹿島会場

鹿島会場は、鹿島市のホームセンターユートク・スーパーモリナガ・ララベルの3ヶ所で実施しました。ときおり冷たい小雨の降るなか、ボーイスカウト鹿島第一団のみなさま、関係者のみなさまが「ユニセフ募金にご協力ください！」と、元気な声で呼びかけました。「雨の中をご苦労さんね。頑張ってください。」と声をかけてご協力くださるお客様もいらっしゃいました。鹿島3会場での募金は44,004円でした。



募金贈呈

12月21日(金)事務所にて

- ・佐賀市立城西中学校では、24人の奉仕委員が各クラスに募金箱を設置し、9月から11月までの3ヶ月間、募金活動に取り組みました。集まった募金を、本日代表の方2名と担当の先生が事務所に届けてくださいました。
- ・当協会からは、お預かりした募金はハンド・イン・ハンドとして世界の子どもたちのワクチンのために使われることをお話しました。

【活動を終えて】

- ・こんなに集まると思っていなかったのが予想外でした。
- ・学校の皆が協力してくれて嬉しかったです。



募金贈呈

12月21日(火) 柳川市立豊原小学校にて

豊原小学校は今日が終業式です。終業式の後、児童たちが各教室で募金を集めたり、学習参観日に保護者らに呼びかけたりして集めたずっしりと重たい募金を受け取りました。募金に協力頂いた募金は、ポリオワクチンにして約2000人分、注射器にすると約8000人分になります。佐賀県ユニセフ協会からは募金がワクチンとして世界100カ国以上の子どもたちのもとに運ばれることなどをお話させていただきました。



豊原小学校は、7月中旬「7・14北部九州豪雨」で被害を受けた地区です。校内も1階部分は水に浸った所もあり、周辺住民約450人も避難してきました。降り続く豪雨の中、校舎では水不足を恐れた住民のために豊原小の上級生や卒業生たちが水運びをしてトイレや飲み水を確保したそうです。トイレの場所やテレビの場所も児童らが率先して案内したりと、思いやり溢れる対応でケガ人や混乱なども一人も出なかったと聞きました。大変な被害があった中、そして先生方も自宅の被害等もあった中で、「世界の子どもたちのために」と今年もあたたかい募金してくれたことに胸が熱くなりました。本当にありがとうございます。

募金贈呈

12月18日(火) 小城市立三日月小学校にて

小城市立三日月小学校のボランティア委員(6年生10人)が中心となって、今年4月～5月にかけて募金活動をしてくれました。昨年に引き続き、各クラスに募金箱を設置するなどして全校児童842人の温かい思いが集まりました。佐賀県ユニセフ協会からは、この募金がハンド・イン・ハンドとして世界の子どもたちのためのワクチンに使われること、またユニセフ手帳を見ながら世界の貧困事情や内戦、地雷などの話をさせていただきました。



募金贈呈

12月7日(金) 大川市立道海島小学校にて

大川市立道海島小学校の運営委員(6年生4人、5年生3人)が中心となって、約1週間の募金活動を行いました。この日は児童の代表3人から「世界の子どもたちのために使ってください」と全校児童150人の思いが詰まった、ずっしりと重たい募金を受け取りました。佐賀県ユニセフ協会からは、この募金がハンド・イン・ハンドとして世界の子どもたちのためのワクチンに使われること、そして世界では予防接種が受けられなかったり栄養が十分でなかったりして命を落とす子どもがいることなどを話しました。



ユニセフ出前授業

11月25日(日) みやき町立北茂安小学校4年生
テーマ:「人々とのつながりをふかめよう」



- ・北茂安小学校では4年生91人が総合的学習の時間に「人々とのつながりをふかめよう」という活動名で学習に取り組んでいます。1学期には、郷土の地名「北茂安」に縁の深い治水事業に取り組み「水の神様」と呼ばれている成富兵庫茂安や、地域の水事情について調べました。それを受けて2学期には世界の色々な国の水事情を知り、そこに暮らす子どもたちのことを知りたいとユニセフ学習をしました。
- ・安全な飲み水が手に入らないため様々なことで困っている子どもたちや、農作物を作ることでもできず栄養不良になる子どもたちが大勢いることを知ったり、水運び体験、ORSの話とスペシャルドリンク作り体験などをしたりしました。この日は授業参観日で体育館には保護者の方もいらっしゃり、水がめをかかえたりスペシャルドリンクを試飲されたりした方もいらっしゃいました。

【活動を終えて】

- ・水がないと野菜も作れず栄養も足りなくなることが分かりました。私は毎日たくさんの水を使ったり食べ物を食べたりしています。これからは食べ残しをしないようにしようと思います。
- ・水運びはきつかった。これを毎日に何回もするのは考えられない。
- ・きたない水を飲んでいる人がいたのでびっくりした。
- ・スペシャルドリンクは、スポーツドリンクを薄くしたような感じだった。
- ・日本には色々な食べ物がたくさんあるけど、他の国にはそうではない国があることがわかりました。日本にたくさんある食べ物は全部日本でできているのだろうかと思いました。



ユニセフ出前授業

テーマ「水とトイレと子どものいのち」

11月21日(水) 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク 神崎市立神埼小学校にて

- ・神埼小学校ドリームパークでは、水とトイレをテーマに1年生~4年生29人(ドリームパークそら組)の児童たちが学習しました。世界の水やトイレに関するクイズをした後、世界のトイレ事情や水事情を勉強し、実際に汚れた水を飲む子どもたちのDVD(「いのちの水~マリからの報告~」)を視聴しました。授業の最後にはネパールの水がめ(15kg)運びを体験しました。

【学習を終えて】

- ・(黄土色の)汚れた水を飲んでるのにビックリした(1年生)
- ・4秒に一人、子どもが死んでることを知らなかった(2年生)
- ・水のむだ使いをしないようにしようと思った(4年生)
- ・水は重い(2年生)



ユニセフ出前授業

11月20日(火) 佐賀市立諸富南小学校4年生

テーマ:「みんなが幸せになるために」

- ・諸富南小学校では4年生45人が総合的学習の時間(サザンタイム)に「みんなが幸せになるために」という活動名で学習に取り組んでいます。今回は、「子どもたちをとりまく世界の情報を知り、自分たちにできることを考える」という目的で、ユニセフを通して「水」と「栄養」を例に、生きるために最低限必要なものにも困っている子どもたちがいることを知り、自分との関わりについて考えました。
- ・まず、世界の食料や水事情を知るために「世界がもし100人の村だったら」をもとにしたワークショップを実施しました。子どもたちを「先進工業国」「ラテンアメリカ」「アジア」の4つのグループにグルーピングした後、「水」「食糧」「エネルギー」などのカードを分配。先進工業国の役の子は水や食糧を持ち切れずに落としてしまい、それを見たアフリカ役の子どもたちは「食べ残しだ!」「分けてくれ!」と口々に言っていました。次に水運びを体験し、DVD(ユニセフと地球のともだち)を視聴し、理解を深めました。



【活動を終えて】

- ・遠いところまで、1日に何回も繰り返し水汲みをしているなんて驚いた。
- ・世界に、いま、こんな暮らしをしている子どもがいるなんて驚いた。
- ・学校に行けない子どももいるので“いま”を大切にしたいと思った。】

ユニセフ出前授業

11月14日(水) 福岡県柳川市立矢ヶ部小学校 1年~3年、4年~6年

テーマ:「たんじょう日があるということ、名前があるということ」



- ・矢ヶ部小学校では毎年ユニセフを通じて世界の子どものことを学ぶユニセフ学習会を実施しています。今年は、世界の子どもの「出生登録」について学び、出生登録によって守られる子どもの権利について様々な事例をもとに考えました。

【活動を終えて】

- ・出生登録がどれだけ大切なものかよく分かりました。お家の人がちゃんと届けてくれて、自分が自分であることを証明するものがあるのを感謝しなければならなかったと思います。
- ・名前や誕生日がちゃんと証明できるものがあるのは当たり前だと思っていたけど、世界にはそうではない子どもたちがたくさんいて、悪用されていることもある。みんなが出生登録をされるようになって欲しいと思いました。
- ・人の名前をちゃんと言わないで悪く言ったりしていたけど、これからは大切な名前だからちゃんと名前呼びたいと思いました。
- ・自分の名前はとても大切なもの、それと同じように人の名前もとても大切なものだと分かりました。だから、名前を大切にします。

ユニセフ出前授業

テーマ「水とトイレと子どものいのち」

11月14日(水) 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク 神崎市立仁比山小学校にて



- ・仁比山小学校ドリームパークでは、水とトイレをテーマに23人の児童たちが学習しました。トイレのクイズをした後、世界のトイレ事情や水事情を学んだあと、それにちなんだDVD（「いのちの水～マリからの報告～」・「ユニセフと地球の友だち」）を視聴しました。さらに、ネパールの水がめを使っての水運びを体験し、「すごく重い」「本当はどれだけ歩くの?」「こぼしたらまた汲みに行くの?」と目を丸くしていました。

【学習を終えて】

- ・ぼくたちには当たり前前の方が当たり前じゃなかった(1年生)
- ・ウンチの化石があるなんて知らなかった(1年生)
- ・水がないだけじゃなくて、学校がなかったり親がいない子どもたちがいたりすることを知った(2年生)
- ・今も世界ではたくさん子どもたちがなくなっていることに驚いた(5年生)



募金贈呈

11月9日(金)事務所にて



- ・佐賀大学文化教育学部附属小学校5年2組では、エコ係のみなさんが募金箱を作り、朝の会と帰りの会で、クラスのみなさんに募金の協力を呼びかけました。10月16日から25日までの10日間で集まった募金は10,491円となり、本日代表の方3名と担任の先生が事務所に届けてくださいました。
- ・当協会からはユニセフの支援物資(経口補水塩、ビタミンA)を紹介し、また、水の大切さを伝えるとともに、ネパールの水がめを運ぶ体験をしていただきました。

【活動を終えて】

- ・クラスのみなが一生懸命協力してくれたこと、この募金で様々な困難な状況にある子どもたちを救えることが嬉しかったです。



レッドトルネード 募金活動

10月27日(土) 第23回 日本ハンドボールリーグ
佐賀大会会場(神崎市神埼中央公園体育館)

- ・トヨタ紡織九州(株)では、社会貢献活動としてユニセフ募金にご協力いただいています。
- ・トヨタ紡織九州(株)ハンドボールチーム、レッドトルネードの皆様は第23回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場において試合終了後にユニセフ募金活動をしてくださいました。本日は神崎市民応援DAY、多くの市民の皆様がレッドトルネードの応援に駆け付けました。選手の皆様、試合後のお疲れのところありがとうございました。ご協力いただいた市民の皆様、ありがとうございました。



ユニセフ・キャラバン・キャンペーン

10月23日(火) 佐賀県庁、佐賀自治会館にて
10月24日(水) 佐賀市立赤松小学校、白石町立白石中学校にて

- ・日本ユニセフ協会は、10月23日～24日に、佐賀県にて「ユニセフ・キャラバン・キャンペーン」を開催しました。「ユニセフ・キャラバン・キャンペーン」は、1979年の国際児童年に開始し、全国の学校でユニセフ教室を開くなどして、世界の子どもたちの現状やユニセフの活動に関する理解・啓発を目的として継続しています。第1回目の佐賀県訪問は1982年。今回は8回目の訪問となりました。
- ・10月23日(火)は、古川康知事(代行:坂井浩毅副知事)および、川崎俊広教育長とのメッセージ交換を行い、県内でのユニセフへの支援に感謝の意を表すとともに、引き続き一層のご協力とご支援を賜りますようお願いをいたしました。同日午後には、県内の教職員、指導主事の方々を対象とした「ユニセフ研修会」を開催しました。



表敬訪問の様子



ユニセフ研修会



赤松小学校でのユニセフ教室



白石中学校でのユニセフ教室

- ・10月24日(水)には、佐賀市立赤松小学校と白石町立白石中学校においてユニセフ教室を実施しました。DVD上映などによるユニセフ活動の説明の他、蚊帳やネパールの水がめなどを体験し、佐賀県ユニセフ協会の活動内容紹介も行いました。

ユニセフ出前授業

テーマ「水とトイレと子どものいのち」

10月17日(水) 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク 神崎市神埼小学校かぜ組(1~6年31人)

神埼小で「水とトイレ」をテーマに授業を行うのは2回目でした。今回は絵本の朗読 や井戸を作る為の紙芝居を行いました。今回は「水とトイレのクイズ」、村に井戸ができて人々の暮らしがどう変わるかに気付くための「Before & After 2枚の絵」、「水がめ運び」、DVD「いのちの水～村に井戸ができた～マリからの報告」などで水の大切さを学びました。

【学習を終えて】

- ・子どもたちが泥水を飲んでいることにびっくりした
- ・今日から水を大切にしようと思った
- ・これからもアフリカの子どもたちのために井戸をたくさん作って、子どもたちが清潔に暮らせるようにしてほしい。



「世界手洗いの日」ルー大柴さんが佐賀を訪問

10月15日(月) 高木瀬小学校、佐賀新聞社にて



- ・「世界手洗いの日(10月15日)」に合わせて、タレントのルー大柴さんが佐賀市の高木瀬小学校を訪れました。6年生127人は「正しい手洗い」の大切さを学んだあと、汚れの落ち具合を確認するチェッカーを使って手の汚れをチェックしました。洗い残しが多く、汚れが取れていない手に驚いた子どもたちは手洗いの6つのポイントを盛りこんだ「手洗いダンス」をルー大柴さんと一緒に楽しみました。
- ・「世界手洗いの日」とは、世界の子どもたちに、正しい手洗いの方法を広めるために、ユニセフや世界銀行、水と衛生に関する関係機関や大学、企業など13の組織から成る「せっけんを使った手洗いのための官民パートナーシップ」によって定められた日です。2008年は、国連が定めた国際衛生年であり、衛生に関する啓発活動が積極的に行われました。これをきっかけとして、2008年から、毎年10月15日が「世界手洗いの日」となりました。世界各地で、せっけんを使った正しい手洗いを普及、促進するための活動が、様々な形で実施されています。
- ・佐賀県では2009年より県の健康増進課を中心に、県内の幼稚園、保育園、学校、保健所などで広く実施されています。



ユニセフのつどい ～アフリカを知る・アフリカに学ぶ～

☆アフリカ近とつツアー

講師：JICA協力隊OBのみなさん

☆「アフリカ取材から見てきたこと、今伝えられること」

講師：大津司郎さん フリージャーナリスト

10月14日(日) 佐賀市立図書館多目的ホールにて

主催：佐賀県ユニセフ協会

共催：JICA九州 佐賀市国際交流協会

後援：佐賀県 佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞佐賀支局 西日本新聞社 佐賀新聞社

NHK佐賀放送局 STSサガテレビ 佐賀県海外協力協会

- ・毎年恒例の「ユニセフのつどい」を開催しました。今年は100人以上の来場者で会場は大賑わいでした。中学生、高校生、大学生など若い人の参加が目立ちました。
- ・第一部の「アフリカ近とつツアー」にはエチオピア、ブルキナファソ、タンザニア、カメルーン、マダガスカル、マラウイ、セネガルの7カ国が参加してくださいました。タンザニアのブースに立ちよった西九州大学の学生は魚の一種・ピラティアのうろこを使ったコースターに興味津々。エチオピアの民族衣装を着ての記念写真を撮る参加者の列もできていました。
- ・第二部は、フリージャーナリストの大津司郎さんによる「アフリカ取材から見てきたこと、今伝えられること」の講演。大津さんは「アフリカ取材から見てきたものは“体験”をしていない直感力のなくなってきた日本社会」だと言い「今の日本の子どもたちに必要なのは『個』を強くする事。友達も大切だが、まずは自分ひとりで生きていく力こそが大切。みんなが右向いてるときに左向いてもいいじゃないか」と会場に呼びかけていました。



【参加者の声】(アンケートより)

I. アフリカ近とつツアー

- ・協力隊に女性が多いのに驚きました。彼女たちの行動力に学びたい。(20代女性)
- ・アフリカの国々の刺繍や手工芸品などを見てよかった。このような技術があるとは思わなかった。(50代女性)
- ・アフリカの人たちのために「行こう！」と思い、「行く！」と実行に移し、「行ってきた！」を伝える協力隊の人たちに感動した。現地では語りつくせないご苦労もあったと思う。しかし、無事に任務を終えて赴任国のことを誇らしげに語る。このような若者が日本の閉塞感を打ち破ってくれるものと期待する。(60代以上男性)
- ・タンザニアの中学生は朝農作業をしてから学校に行き、お弁当や給食はなくて3時頃まで学校で勉強する学校へ行くのに歩いて1時間くらいかかるということを知ってお腹がすくだろうなあと思った。勉強も電気ではなくろうそくをつけて勉強をしている。タンザニアの子どもはすごいと思った(10代男性)



(次ページに続く)



Ⅱ. 講演「アフリカ取材から見てきたこと、今伝えられること」:大津司郎さん

- ・世界を知ることの大切さを学びました。日本で流れている報道だけが真実ではないなあと感じました。体験することが大事だと思いました。(30代女性)
- ・アフリカは意外と食料があるということにおどろきました。10代女性)
- ・誤解を消し去る力。アフリカについて誤解していたことがあった。これがとても強かった。(10代男性)
- ・韓国語しか話せない韓国人がアフリカでダイヤを掘っているということに驚いた。(10代男性)
- ・大津さんのお話には大変共感できる場所が多かったです。自分も日頃そう思っていることを代弁してくださったようで、スッキリしました。やはり、大津さんのようなパワフルさが必要だと思いました。本当に勉強になりました。(20代男性)



3・11の子どもたち ユニセフ東日本大震災報告写真展

10月11日(木)～10月17日(水) 佐賀市立図書館2F ロビーギャラリーにて

後援 : 佐賀県 佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞佐賀支局 西日本新聞社 佐賀新聞社
NHK佐賀放送局 STSサガテレビ

- ・2011年3月11日、日本は東日本大震災という未曾有の大災害にみまわれました。その直後から日本ユニセフ協会には、国内外から被災した子どもたちのために温かい支援が寄せられました。ニューヨークのユニセフ本部もまた、日本ユニセフ協会を通じ、約半世紀ぶりとなる日本への支援を表明しました。あの日から1年7ヶ月、日本ユニセフ協会は被災地の方々とともに、子どもたちの健康を守り、教育を再開し、心の回復を支える活動を展開しています。このたび、多くの著名な写真家の方々、国内報道各社、協力企業の皆様にご支援いただき、写真展という形でご報告する機会を得ることができました。
- ・佐賀会場はスペースの関係で小規模展示(33点)としました。一枚一枚の写真を食い入るように見られる方、大型写真の前で立ちすくみしばらく動かない方、…様々な思いで被災地の皆さまへ思いを馳せておられるようでした。



アンケートボックスにはたくさんの感想やご意見が寄せられていました。その一部をご紹介します。

- ・「水を運ぶ少年」の写真…昨年私が持っている本で出会い、心に強く残っていて、今日は「彼」を見にきました。空手でがんばって、強く生きている様子がわかり嬉しかったです。
- ・忘れかけていた部分もあったので、再認識できました。復興まで時間がかかるとは思いますが、日本全体で取り組んでいかなくてはならないと思いました。
- ・震災のことを忘れかけていました。震災のことを他人事のように思っていたので、今回写真を見て、考え方も変わり、自分にできることを探して自分のためだけでなく誰かのためにできることをしたいです。
- ・東日本大震災が起こった時の状況がまた走馬灯の様によみがえりました。何度考えても見ても悲しくてたまりません。早く被災者の方が元気になれる事を祈ります。
- ・夫婦の写真、子どもの写真、泣きながら見ました。みんなみんな、一日も早く、末永く元気でいて下さい。本当に今日来て良かった。ありがとうございます。
- ・新聞やテレビが社会問題を報道するのに対し、この企画では被災者の生活をありのまま感じることができたように思う。改めて、自分が被災したらどうするか考えるきっかけになった。
- ・隣の学習室で資格試験の勉強をしていて気分転換に写真を見た。勉強は大変でくじけそうになるけど写真を見て「がんばる力」をもらった。ありがとうございました。
- ・写真を見て“命”の大切さを改めて感じました。生きてよかったです。被災地の子どもを助けたい気持ちが一杯です。明日からもっと頑張りたいです。

募金贈呈

10月5日(金) 事務所にて

佐賀清和中学校では9月4日～7日に清和祭が行われ、ユニセフ実行委員会の15人の皆様が中心となってユニセフチャリティー バザーと募金活動をしました。本日はユニセフ実行委員会の代表5名の方が事務所にユニセフ募金をお届けくださいました。保護者の皆様や生徒の皆様からご協力いただいたユニセフ募金は、56,405円にもなりました。募金活動にあたっては、ビデオ等で事前学習をしたりポスターを作ったりして各クラスをまわり、協力を呼びかけました。



【活動を終えて】

- ・私は2年間ユニセフ実行委員として活動をしました。募金活動をしたり、ビデオを見たりしてユニセフのことについて深く知ることができました。募金が困っている子どもたちのために役立って欲しいです。
- ・私は実行委員長でした。2回目の実行委員ですることは分かっていたのですが、委員長としての仕事は大変でした。パネルなどを見て私たちよりも小さな子どもが働いているのにびっくりしました。私はそのような子どもたちのために頑張ろうと思いました。子どもたちに幸せになって欲しいです。
- ・私は1年生のときもユニセフ実行委員をして今回が2回目でした。たくさんの子どものために少しでも役立てるように一生懸命活動しました。この募金が世界の子どもの助けになればいいと思います。
- ・私は初めてユニセフ実行委員をしました。世界の子子どもたちが現在どれほど苦しい思いをしているか、救える命がどれほどたくさんあるかを学ぶことができました。今回の募金で一人でも多くの命を救えたらいいなあと思いました。
- ・私は初めてユニセフ実行委員をし、一人でも多くの子どもたちを助けられるようにと思って活動しました。ユニセフのビデオを見て、学校に行けずに働いている子どもたちがたくさんいたことに驚きました。今回私たちがした募金で世界の子子どもたちをたくさん 助けられたらいいなあと思いました。

ユニセフ出前授業

テーマ:「平和を考えよう」

9月12日(水)神崎市放課後子ども教室ドリームパーク 神崎市千代田西部小学校ゆめ組(1年~6年、31人)
9月19日(水)神崎市放課後子ども教室ドリームパーク 神崎市千代田西部小学校ほし組(1年~6年、34人)

- ・神崎市ドリームパークは、放課後の小学校を子どもの安心安全な居場所として開放し、地域の大人たちの指導のもと、スポーツや文化活動などのさまざまな体験を通して、心豊かでたくましい子どもを育むことを目的としています。
- ・今回の出前授業は「平和の旅へ合唱団・さが」とのコラボレーションでした。合唱団のみなさんは、「地雷ではなく花をください」(絵・葉祥明、文・柳瀬房子)の大型紙芝居や平和を願う歌を素晴らしいハーモニーで歌い、子どもたちに平和の大切さを伝えました。
- ・佐賀県ユニセフ協会は、地雷のレプリカを展示して、戦争が終わってもなお地雷の被害にあう子どもたちがいること、ユニセフは子どもたちが地雷の被害から身を守るための教育をしていることなどをお話しました。
- ・学習の後、子どもたちは「地雷って怖いものだと分かりました。」「歌やピアノがきれいで楽しかったです。」「戦争のときのサツマイモのおやつはおいしかったです。」等と話していました。



ユニセフ出前授業

9月14日(金)佐賀県立中原特別支援学校鳥栖田代分校中学部

テーマ：「世界の子どもたちとユニセフのはたらき」

佐賀県立中原特別支援学校鳥栖田代分校中学部の皆さんは、総合学習の時間に、世界の子どもたちとユニセフのはたらきについて学習しました。水のクイズでは、地球上の海水と淡水の割合、人間の体に含まれている水分の割合などについて学び、水の大切さを改めて考えました。栄養の話では、世界には栄養が足りない子どもたちがたくさんいること、そのためにユニセフがどのような支援をしているか、ということを知りました。その後、ネパールの水がめを使っての水運び体験も行い、世界の子どもたちの生活を考えました。生徒の皆さんからは、事前学習でユニセフについて学習したからこそ疑問に思われる確かな質問も出されました。最後に、持ち寄ったお小遣いを「世界の子どもたちのために役立ててください。」と募金をしてくださいました。



【質問&感想】

- ・どうして水道がないのですか？
食べ物がいない人がいっぱいいるけど、その人たちのためにユニセフはどんなことをしているのですか？
- ・戸籍のない(出生登録がされていない)子どもは、どのようにして学校に行くのですか？
- ・世界の子どもたちがみんな学校に行けるようにするため、ユニセフはどんなことをしているのですか？
- ・水は重かった！
- ・水運びの大変さ、気持ちがよく分かった。
- ・募金や、ユニセフの手伝いなど、自分たちにできることをしたい。



ユニセフ出前授業

8月22日(水) 神埼市放課後子ども教室ドリームパーク千代田東部小学校ほし組(1年~6年、16人)

テーマ : 「水とトイレと子どものいのち」

神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神埼市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。

千代田東部小学校ドリームパークほし組の子どもたちは、「水とトイレと子どものいのち」というテーマで学習しました。「トイレクイズ」では、トイレがなかった時代の先人の知恵を学び、また世界には今でもトイレのない家や学校がたくさんあることを勉強しました。水の話では、安全な水が飲めないため、下痢を起こし脱水症になり、世界では毎日約4000人の子どもたちが命を落としていることを勉強しました。ワークショップ「くらべてみよう2枚の絵」では、村に井戸ができる前とできた後の人々の暮らしの変化をたくさんみつけて、安全な水によって人々の生活が大きく変わることに気付きました。その後、ネパールの水がめを使っての水運び体験も行い、世界の子どもたちの生活を考えました。



【初めて知ったこと・気付いたこと】

- ・トイレがないところがあるなんてびっくりしました。
- ・きたない水しかのめないところがあるのはかわいそう。
私はきれいな水が飲めるのに…。
- ・井戸ができれば畑ができたり木がふえたり、服をあらったり丈夫な家ができるようになってよかった。
- ・井戸ができれば動物たちもきれいな水がのめるようになって喜んでる。
- ・井戸ができれば人が増えて学校に子どもたちが増えて、旗もあがるようになった。
- ・畑を耕すクワもできるようになった。
- ・食料をいっぱい食べられるようになってよかった。
- ・きれいな水で体を洗えるようになってよかった。



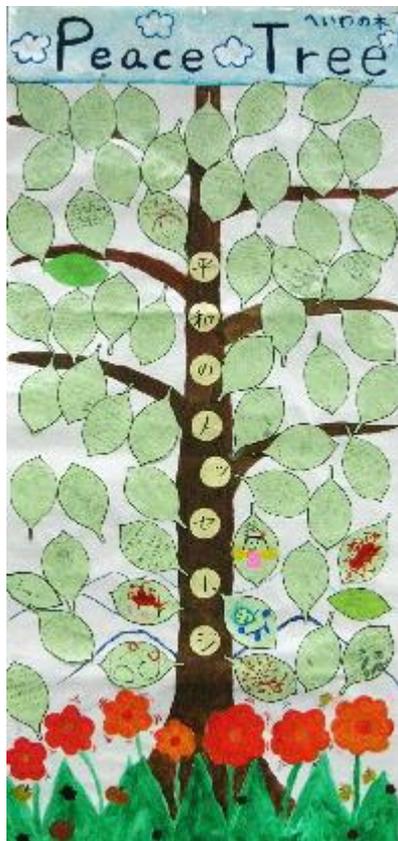
ユニセフ出前授業

8月21日(火) 白石町立白石小学校 テーマ:「平和についてかんがえよう」

白石町立白石小学校(児童数192人)では夏休みの登校日8月21日に平和集会が行われました。佐賀県ユニセフ協会より、「平和ってどんなこと? 今世界での紛争は? 子どもたちの様子は? 子どもたちのためにユニセフがしていることは? 平和を守るために私たちが今からできることは?」等の内容でお話をさせていただきました。大変暑い中にも関わらず、子どもたちは真剣に耳を傾けて話を聞いていました。

第21回佐賀市平和展～語り継ごう、平和の尊さ～

旧ユーゴスラビアの子どもの絵「目をとじれば平和が見える」&地雷展「地雷ってどんなもの？」
8月9日(木)～8月12日(日) 佐賀市立図書館(佐賀市どん3の森)



- ・佐賀市では平成4年度から毎年「佐賀市平和展」を開催し、今年で21回目を迎えます。今回の平和展は、「親と子がいっしょに考える平和展」をコンセプトに、子どもたちにも分かりやすい内容の展示や催しもの、戦時中の食事「すいとん」の試食会や千羽鶴折り紙コーナーなどが設けられました。
- ・佐賀県ユニセフ協会は、旧ユーゴスラビアの子どもたちが描いた「目をとじれば平和が見える」(ほるぶ社出版)の絵や地雷レプリカの展示をしました。「Peace Tree平和のメッセージ」には、ご覧いただいた皆様からたくさんのメッセージが寄せられました。文字の書けない小さな子どもたちは、絵で気持ちを表現してくれました。会場には約1900人の皆様のご来場がありました。

【Peace Tree平和のメッセージより】

- ・ばくはつやせんそうがこんなにこわいとはしりませんでした。ひがいにあった人たちのために、なにかやりたいです。私はせんそうがない平和なみらいをつくりたいです。(9歳)
- ・私は戦争がとてもこわいと思いました。ばくだんでたくさんの人の命をうばうからです。それで、どの世界にも戦争がおこらないような平和な国になってほしいと思いました。戦争というのは、人と人のかかわりからできていくので、もっと人を大切にしたいと思います。(10歳)
- ・すごく怖いものだと思っていたけど、私たちの身近に戦争というものがあると思います。今の日本は、とても平和だけど、私たちが平和にくらしている今も、ほかの国は戦争があっていると思うので、はやくなつてほしいです。(12歳)
- ・私たちが、日本人として、広島・長崎で起こったことを忘れず、多くの犠牲者の上に、今の日本の幸福があることを感謝したい。また、今こうしている中にも、世界には恵まれない環境の中で何かに怯えながら生活を余議なくされている人々のことを思い、祈りたい。(29歳)

- ・私たちは、たまたま、平和な時代、平和な国に生まただけ。ユーゴスラビアのこの子たちに、何の罪があるのでしょうか。彼らに、平和な未来が訪れることを、願ってやみません。子どもたちの叫び、願い、祈りに胸をつかれました。(56歳)
- ・世界中のみんなが笑顔で楽しい日々が送れますように祈っています。(64歳)



TAP PROJECT JAPAN ～きれいな水を、世界の子どもに～

7月28日(土)～8月5日(日)



- ・TAP PROJECTは、レストランやカフェ等で提供されるお水やお茶に対して任意での募金をしていただくという活動です。具体的には、レストラン内のテーブルに用意されたカードでお客様に趣旨をご理解いただき、チップの感覚で任意の金額を置いていただきます。また、一部店舗ではカウンターなどに設置された募金箱による募金も実施致しました。TAPは英語で蛇口の意で、tap water は水道水となります。2007年にニューヨークで始まり、世界各地で展開しています。
- ・皆様のご協力のもと集められた募金はアフリカのマダガスカル共和国に送られ、農村部の小学校の井戸やトイレの設置に使われます。
- ・佐賀県内では、ホテルニューオータニ佐賀様・旅館あけぼの様・グランデはがくれ様・さがんれすとらん志乃様・ピサロ様、それにアパホテル様にご参加くださいました。ご協力いただいた各店舗様、お客様、ありがとうございました。



ユニセフパネル展&ユニセフ・カードとギフト頒布

8月2日(木) ピースアクション2012会場 アバンセ(佐賀市)

- ・佐賀県生活協同組合連合では、“平和とよりよき生活のために”をスローガンに、毎年親子で取り組める平和活動を行っています。次世代の子どもたちのためにも、核兵器と戦争のない世界を願って、今年も『ピースアクション2012』が開催されました。約200人の参加者があり、元気いっぱいの子どもたちや、そのお母さん方で会場のアバンセは活気に満ちあふれていました。午前中は、どんどこんの森ふれあい広場から平和行進がスタートしました。午後はアバンセホールで「平和のつどい2012」が開かれ、弓削田健介さんとティーンズミュージカルSAGAの皆さんによる公演がありました。
- ・ホール・ホワイエで、ユニセフのパネル展・地雷レプリカ展・ユニセフ・カードとギフトの頒布をしました。皆さまからのユニセフ・カードとギフト頒布ご協力は7,580円、ユニセフ募金へのご協力は4,820円でした。ありがとうございました。



募金贈呈式

8月2日(木) 事務所にて

佐賀市立城西中学校生徒会の奉仕委員会では、3月のアフリカ干ばつ緊急募金に続き、6月1日から30日まで「東日本の子どもたちのために」と、各クラスの奉仕委員がクラスに1つずつ募金箱を設置し、東日本大震災復興支援募金を呼びかけました。奉仕委員会代表の方と引率の先生が、集まった募金10,777円を佐賀県ユニセフ協会までお届けくださいました。ずっしりと重たい募金箱を持って、「みんなの気持ちで被災地の子どもたちの役に立てたらいいです。」と話してくださいました。



ユニセフ出前授業

8月1日(水) 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク千代田東部小学校ゆめ組(1年~5年、25人)

テーマ:「水とトイレと子どものいのち」

- ・神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。
- ・千代田東部小学校ドリームパークゆめ組の子どもたちは、「水とトイレと子どものいのち」というテーマで学習しました。「トイレクイズ」では、トイレがなかった時代の先人の知恵を学び、また世界には今でもトイレのない家や学校がたくさんあることを勉強しました。水の話では、安全な水が飲めないため、下痢を起こし脱水症になり、世界では毎日約4000人の子どもたちが命を落としていることを勉強しました。ワークショップ「くらべてみよう2枚の絵」では、村に井戸ができる前とできた後の人々の暮らしの変化をみつけて、安全な水によって人々の生活が大きく変わること気付きました。その後、ネパールの水がめを使っての水運び体験も行い、世界の子どもたちの生活を考えました。

【学習を終えて】

- ・トイレのない家や学校があるなんて知らなかった。びっくりしました。
- ・きれいな水を飲めない国があるというのを知らなかった。それを今日私は知ったので嬉しいです。
- ・井戸ができてみどりが多くなって野菜も育つようになりました。
- ・わらの家からレンガの家になりました。
- ・きれいな水で顔をあらえるようになって、みんな元気そうでよかったです。
- ・人も動物もきれいな水を飲めるようになってよかったです。
- ・村に人や木や動物がふえました。
- ・これから節水をしようと思います。
- ・きたない水をのんでいる子どもたちに井戸を作ってあげたいと思います。



ユニセフ入門講座 “Find something you can do for children!(子供たちのためにできることを見つけよう!)”

2012年7月29日(日) TOJIN茶屋2階会議室(佐賀市唐人町)

- ・ユニセフに興味を持って下さる方を対象に、ユニセフ入門講座を行いました。外国人の方にも参加いただくために、今回は初めて英語での講座を実施。当日は、日本人の方も外国人の方も、楽しくユニセフについて考えてくださいました。
- ・ユニセフの活動や、日常生活の中で皆さんに出来るボランティアなどについてお話をさせていただき、また、「ユニセフと聞いて思い浮かぶ言葉は?」「その中でもっと深く知りたいこと、興味のあることは?」といったテーマでワークショップも行いました。参加者の方からは、「ボランティアとしてどのように貢献ができるか、もっと考えたい。」「次回も是非こういったセミナーを実施してほしい。」といった声が聞かれました。猛暑の中、会場まで足を運んでくださった参加者の皆さま、大変ありがとうございました。



【振り返りシートより】

- ・ユニセフが何の活動をしているか、よくわからないでいました。活動がわかったので、自分にできる事をしたいと思います。私自身も、これから、少しでも活動して、何か提案できるようになりたいと思います。
- ・5才未満児死亡率の高い国がこれだけたくさんあることに驚きました。
- ・ユニセフはもっと遠いものかと思っていたけど、自分たちでも身近にできることがあると分かったので参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・ユニセフによって楽しくボランティアができて交流できる場所になればもっとたくさんの人が集まると思うので楽しいイベントを繰り返し、ユニセフに興味を持ってくれる人をふやして下さい。
- ・Why don't you have another seminar next time?(次回も第二弾を行ってみてはどうですか?)

募金贈呈式

7月12日(木) 佐賀市立赤松小学校(佐賀市中の館町)

赤松小学校では今年もユニセフ募金活動に取り組みました。7月2日(月)から7月6日(金)までの5日間、ボランティア委員のみなさんは登校時に児童昇降口で募金箱を持って協力を呼びかけました。全校のみなさんが協力してくれて、18,230円もの募金が集まり「世界の困っている子どもたちのために。」と託されました。

日本は梅雨の真っ最中だが、アフリカのサヘル地域では干ばつのため作物の生産もままならず、発育に必要な栄養が足りないでいる子どもたちがたくさんいること、それに対するユニセフの支援などを紹介しました。



ユニセフ チャリティーコンサート「作曲家 林冬樹の世界」

6月30日(土) 浪漫座(佐賀市)

ユニセフ チャリティーコンサート「作曲家 林冬樹の世界」には、雨にもかかわらず多くのお客様にご来場いただき、立ち見まで出るほどでした。フルートやピアノのための曲、歌曲、朗読を交えた音楽のための「むかしばなし」、ピアノソナタなどが9人の演奏家によって紹介され、林冬樹氏の音楽の世界を堪能していただきました。またサプライズで、会場のお客様から佐賀のご当地グルメ「シシリアンライス」をイメージした曲のリクエストがあり、林氏は即興で「シシリアンライス」を演奏され最後に「できあがり〜♪」と、会場一体となった楽しいコンサートでした。

コンサートの合間に、ユニセフの活動の紹介やグッズのご紹介をしました。ユニセフへのご協力は19,843円、グッズの頒布額は20,710円でした。関係者の皆さま、雨の中をご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



募金贈呈式

6月26日(火) アバンセホールにて(佐賀市天神どん3の森)

コープさが生協では2008年度から「ネパール指定募金」として、お年玉募金をはじめ、エリアでのユニセフバザー、コープフェスタなどの中でユニセフ募金活動に取り組んでおられます。

2012年度第22回通常総代会において「ユニセフ・ネパール指定募金」163,525円を、佐賀県ユニセフ協会太田記代子常務理事に贈呈されました。皆様からご協力いただいた浄財は、ネパールにおける「地域主体の女性と子どもたちのためのプログラム(DACAW):農村女性による村の開発計画(教育・保健・衛生・保護)」を資金面・技術面から支援するために役立てられます。ありがとうございました。



募金の贈呈



太田記代子常務理事よりお礼の言葉

ユニセフ出前授業

6月22日(金) 上峰町立上峰小学校
テーマ:「平和についてかんがえよう」



- ・上峰町立上峰小学校(児童数630人)では6月22日に平和集会が行われました。ボランティア委員会代表の児童から昨年末に取り組んだユニセフ・ハンド・イン・ハンドで学んだことの発表があり、本日はユニセフを通して「平和」についてかんがえましょう、との挨拶がありました。
- ・佐賀県ユニセフ協会より、「平和ってどんなこと？ 今世界での紛争は？ 子どもたちの様子は？ 子どもたちのためにユニセフがしていることは？ 平和を守るために私たちが今からできることは？」等の内容でお話をさせていただきました。
- ・最後には、全校のみなさんによる「世界がひとつになるまで」のきれいな心のこもった歌声が体育館いっぱいに広がりました。

【平和集会の感想】

- ・今日、へいわしゅう会がありました。わたしはあたりまえのことがへいわとはしりませんでした。これからわたしはみんなとあいさつをしたいと思います。(2年)
- ・せんそうのときは、電気が使えない。ごはんも今よりぜんぜん少ない。外で元気よく遊べない。今とはまったくちがう生活。日本はとても平和だなあとあらためて感じました。地しんやしぜんのさいがいには止められない。でも、戦争は人びとがやっているのだから自分たちでとめられる。だから世界が一つになって争いのない平和な地球にしたいと思います。(3年)
- ・私は平和について考えたことがなかった。平和ってどういうことなのだろう？ 今日、話を聞いてよく分かった。平和というのは、友達としゃべったり、笑ったり、毎日ご飯が食べられたり...。今、私たちがしていることが平和なんだと思った。でも、今、私たちがご飯を食べているとき、戦争があっている国の子どもたちは、泣いて早く戦争が終わって欲しいと思っているだろう。今、私にできること、それは誰とでも仲良くして、戦争があっている国のことを思うこと、私にできることを考えることだと思った。私たちは平和なんだ。(6年)
- ・平和とは...と、あまり考えたことはなかったけど今日の話聞いて、自分の当たり前の生活が平和。毎日3回食事して学校に行ったり友達と遊んだりするのも平和だからできること。なので、それを当たり前だとは思わないでどれもこれも大切なことだと思いました。外国では60年以上も戦争が続いている国がある、電気もつけられない、食事もいつもの自分の一回分よりも少ない...と思うと、今どれだけ自分が幸せかがよく分かりました。これからは「思いやり」を大切にしていきたいです。(6年)
- ・私が平和を感じたのは平和集会が終わった後だった。先生たちが体育館のカーテンを開けると日の光が体に当たった。その光はあたたかくとても気持ちよかった。でも、今戦争中の国の人も同じ太陽から日の光を浴びている。私たちが浴びているのはとても幸せで平和な日の光なのだと感じた。今、私にできることは「手をつなぐ」ことだと思う。あたたかく手をつなげば人は安心できる。考えてみれば私は一度もクラスみんなと手をつないだことがない。これからは手をつなぎ、世界中の人々があたたかく明るい日の光を浴びたいいなあと感じた。(6年)

ユニセフ募金 & ユニセフグッズ頒布

第28回 鹿島ガタリンピック「～みんなの宝はここにある～」

6月3日(日) 鹿島市七浦海浜スポーツ公園



有明海の広大な干潟でのガタリンピック

- ・広大な有明海の干潟をグラウンドにした鹿島ガタリンピック。好天に恵まれ、132人の外国選手を含む約1,300人の選手が全身泥んこになって競技を繰り広げました。3万2千人の観客は、ガタチャリ・人間むつごろう・子ども宝さがし・HAKKEYOIなどの趣向をこらした競技に奮闘する選手達に熱い声援をおくり、みんなの笑顔がはじけました。
- ・西部中学校吹奏楽部、陸上部の皆さんをはじめ、総勢36人のボランティアの皆さんは、ユニセフの青い募金箱を持って会場をまわり、募金協力を呼びかけました。皆さまからご協力いただいた募金は41,976円、グッズの頒布は7,890円でした。お預かりした募金は、長期にわたる干ばつに苦しむアフリカサヘル地域の子どもたちへの支援にさせていただきます。ご支援ご協力いただいた全ての皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ミニバザーコーナー



ありがとうございます！



肥前夢街道の忍者隊の応援



ゴレンジャー隊の応援



韓国釜山外国語大生のムツゴロウくん

第19回ユニセフチャリティーバザー

ユニセフ募金活動&グッズ頒布

5月27日(日) 佐賀玉屋デパートにて



多くのお客様で大盛況

5月27日、佐賀玉屋南館アーケードで「東日本大震災復興支援バザー」を開催しました。「ユニセフニュースを見て」「ホームページを見て」「新聞で知ったので」「実行委員会からのお知らせで」等々、県内だけではなく、茨城・東京・横浜・大阪・神戸・岡山・福岡などの県外からもバザー品のご提供をいただきました。当日、会場までお持ちくださった方もいらっしゃいました。また、企業・団体の皆さまからも多くのご協力をいただき、お陰様で約850点の品物が集まりました。



日頃から鍛えた主婦の感覚で値付け作業

会場においていただいた多くのお客様のご協力と総勢27名のボランティアさんの頑張りで、バザーの売上は、157,577円にもなりました。全額被災地の子どもたちのための支援にさせていただきます。

バザー品をご提供くださった皆様、お買い物をしてくださったたくさんのお客様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、そしてボランティア協力をしてくださった皆様、大変ありがとうございました。

【高校生ボランティアさんの話】

たくさんのお客さんが来られてびっくりしました。お客さんとのやりとりが楽しかったです。今日、私たちが頑張ってお客さんに買ってもらったお金が、被災地の子どもたちのために役立てられるので嬉しいです。



みんなで頑張った！ さわやかな笑顔のボランティアさん

ユニセフグッズの頒布&ユニセフ活動の紹介

5月20日(日) 唐津市虹の松原広場

第43回『青年の日』 第18回 チャリティーフェスティバル
～愛 発信!! ひとりじゃなかよ! みんなおるばい!!～



- ・緑深まる虹の松原広場で、青年の日実行委員会とボランティア団体クローバーによる「第18回チャリティーフェスティバル ～愛 発信!! ひとりじゃなかよ! みんなおるばい!!～」が開催されました。会場では1,400人の市民の皆さんがフリーマーケットや屋台めぐり楽しまれました。
- ・NPO/NGO活動紹介では、東日本大震災に際し救援物資の輸送等に迅速なご支援をいただいたお礼を申し上げ、また一方で、アフリカの干ばつにより食糧危機に陥っているサヘル地域の子どもたちへのご支援をお願いしました。グッズのご協力は16,190円、募金箱には2,311円のご協力をいただきました。ありがとうございました。

イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加

5月11日(水) イオン佐賀大和店(佐賀市大和町)



イオンは、毎月11日を「イオンデー」とし、地域社会の一員として社会貢献活動を行っています。今日は、その社会貢献活動の一つ、「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加しました。

【参加者の感想】

キャンペーンでユニセフへのご協力を呼びかけると、以前より多くのお客様が快くレシートを投函してくださるようになりました。イオンの社会貢献活動の取り組みが、お客様にも知られるようになったのだと感じました。このような取り組みをされるイオンや、理解とご支援してくださるお客様に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

第109回有田陶器市

ユニセフ募金活動&グッズ頒布

5月3日(木) 今右衛門窯・今右衛門古陶磁美術館前にて(有田町赤絵町)



有田陶器市は例年4月29日から5月5日までのGWに開催されます。今年は「絆」をより深く～食卓に器の花を～」のテーマのもと、期間中130万人を超える人出で賑わいました。

3日は朝から時おり小雨模様のお天気でしたがお昼頃には回復し20万人の人出でした。陶器市メインストリートの中ほどにある今右衛門窯・今右衛門古陶磁美術館前で、ユニセフ募金活動とグッズの頒布を行いました。佐賀大学・西九州大学・佐賀清和高校の皆様他、総勢20名のボランティアの皆様は早朝より会場に来てくださり、メインストリートを歩かれるお客様に声をかけて募金協力や、グッズへのご協力を呼びかけました。「いつもここでユニセフのカードを買うのを楽しみにしています。」とおっしゃる県外からのお客様あり、嬉しく思いました。

多くの皆様のご支援をいただき、151,395円のユニセフ募金と、28,690円のグッズのご協力をいただきました。ありがとうございました。

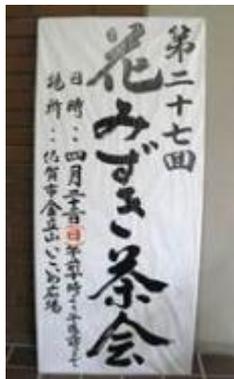
【ボランティアさんの話】

- ・今日一日募金活動を体験して自分自身のボランティアに対する考えが変わりました。体力的にはきつかったけど、少しでも自分の気持ちがお客さんに届くようにと大きな声を出して世界の子どもたちのことを訴えました。とてもやりがいを感じました。
- ・初めは大きな声を出せなかったけどだんだん慣れて大きな声で呼びかけられるようになりました。お客さんがにこにこして募金箱にお金を入れてくださると自分も笑顔になり、気持ちが通じたようで嬉しくなりました。



ユニセフパネル展

4月22日(日) 第27回花みずき茶会にて(佐賀市金立山いこいの広場)



満開の花みずきが新緑に映えるなか、「第27回花みずき茶会～平和への祈りをこめて～」が開催されました。主宰の小倉厚子先生はユニセフや国際ソロプチミストを通して、困難な状況下にある子どもたちや女性たちへの支援を続けておられます。

今年は、「平和を祈る花みずき茶会」の原点ともなっている小倉先生のご尊父様の散華の地であるミクロネシアトラック島への慰霊の旅をテーマとして、トラック島や南の島に縁のあるお道具で、多くのお客様とともに平和への祈りを共有してのお茶会となりました。

待合には、ユニセフのパネルやトラック島慰霊の旅のパネルが展示され、お客様にご覧いただきました。



イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」贈呈式

4月11日(水) イオン佐賀大和店(佐賀市大和町)

イオン九州株式会社では、地域への社会貢献活動の一環として「いい日、いい街、イオン・デー」として毎月11日に「幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施しておられます。この日は、お客様がレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れてくださると、お買い上げ金額合計の1%が地域ボランティア団体などにイオンギフトカードとして贈られます。

贈呈式では、イオン佐賀大和店丸田店次長様より「多くのお客様に黄色いレシートキャンペーンの趣旨をご理解いただき毎月ご協力いただいておりますが、当店の全売上額と比較するとキャンペーンご参加率はまだ向上の余地がありますので、今後もキャンペーンの輪を広げるため更に頑張っていきたいと思います。」とのご挨拶がありました。

佐賀県ユニセフ協会には2011年度分として36,100円分のギフトカードの贈呈がありました。当協会のBOXにご協力いただいたお客様のお気持ちを全額ユニセフ募金とさせていただきます。皆様、ありがとうございました。

贈呈式後は、1階食品売り場付近にてお客様にユニセフへのご協力の呼びかけを行い、黄色いレシートキャンペーンの促進につとめました。たくさんのお客様がレシートを投函してくださいました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。



JA佐賀県女性組織協議会「愛の募金」贈呈式

3月14日(水) 佐賀新聞社

JA佐賀県女性組織協議会(藤木智恵子会長・部員約2万人)では、昭和54年の国際児童年を契機に子どもたちのための募金活動に取り組み、平成元年に「愛の募金」と名称を変え今日に至っています。活動は今年で33年目となり、毎年ユニセフと佐賀県内10ヵ所の児童福祉施設に、部員の皆様の善意を届けています。

平成23年度は8月から11月まで部員の皆様に「助け合いの心を大切に。皆さんの善意を社会に活かしましょう。」と呼びかけ、募金活動に取り組みました。本日は、藤木会長より「JA女性部の助け合いの心です。世界の子どもたちの幸せのために役立ててください。」と140,788円の浄財を、佐賀県ユニセフ協会中尾清一郎会長に贈呈されました。

中尾会長より、「戦後日本が貧しかったころにユニセフより粉ミルクなどの支援がありました。東日本大震災で、50数年ぶりとなるユニセフの支援を被災地にいただいています。JAの皆様も被災地に色々な面で支援されているなかで、ユニセフへのご支援もいただいで大変ありがとうございます。」とお礼の言葉がありました。



ユニセフ学習会 ワークショップ ～東日本大震災からはじまる学び～

2012年3月11日(日) 佐賀市アバンセ 4階第2研修室にて

・ワークショップ「3・11をふりかえる」

東日本大震災からちょうど一年。会場には32名の方のご参加がありました。この節目の日に「3・11をふりかえる」ワークをして、改めて地震・津波・原発事故について皆さんの思いを出し合い、共有し、新たな気付きを得ることができました。地震発生の午後2時46分、参加者は起立して、犠牲になられた方々のご冥福を祈り黙とうをささげました。

・ワークショップ「世界からの援助」

「世界からの援助」のワークでは、東日本大震災に世界各国から寄せられた支援について話し合いました。参加者の皆さんは、世界のほとんどの国や地域から様々な形での支援が届けられている事実を知り大変驚いていました。「日本より貧しい国からも支援してもらっていることは知らなかった。」「日本がこれまで支援をしてきている国から支援物資が届いていることに驚いた。」などの声が聞かれました。



・留学生のみなさんのお話 ～私が見た「東日本大震災」～

弘堂国際学園((鳥栖市)の留学生をお招きして、外国の方から見た東日本大震災についてのお話をさせていただきました。



母国で過去に起きた大地震の経験、日本への激励メッセージ、そして復興支援のために力になりたいというお気持ちなど、貴重なお話が聞けて、大変勇気づけられました。「原発事故の後、日本に留学することに対して、とまどいはありませんでしたか？」という参加者からの問いかけには、「原発事故のことは知っていましたが、生活に大きな支障はないということが確認できたので、問題ありませんでした。実際日本に来てからも、大きな問題はないので、大丈夫だと思っています。」「日本が大変な時期だからこそ、ここで勉強したい、自分も何かお手伝いをしたい、という気持ちで来ました。」という心強い答えが返ってきました。

(次ページに続く)

※ラメス・シルワルさん(ネパール)のお話

私はネパールのラメス・シルワルと申します。

今日は私が東日本大震災について感じたことを話したいと思います。

2011年3月11日、東日本は大きな地震と津波でとても大きな被害を受けました。

世界中で大きなニュースになり、世界中の人が日本のことを心配しました。

私はちょうどその時、日本留学の準備をしていました。自分がこれからがんばる国、日本でこんなに恐ろしいできごとが起きたので、私の家族も友だちも私が日本に行くことをとても心配しました。

このような自然災害は地球のどこかで毎年のように起きています。東日本大震災で私が一番心配したのは放射能のことです。ネパールのメディアでは放射能漏れのことを大変大きく報道していました。放射能は本当に怖いものです。目に見えなくて、いろいろなものに混ざってくる可能性があります。去年の**3月11日**に留学準備していたのは、今いる学校、九州の鳥栖にある弘堂国際学園でした。弘堂国際学園のスタッフは震災直後ネパールに来て、私たちにいろいろな情報をくれました。それで、私は悩んでいましたが安心して日本に来ることができました。

私は**3月11日**に、ネパールにいて震災が起きたところをテレビで見ました。そして、日本人はほんとうにすばらしい人たちだと思いました。大変な時なのに、みんな我慢強く、ゆずり合ってコンビニの前に並んでいました。その様子はとても感動的でした。

私の国、ネパールも大きな地震の恐れのある国のひとつです。ですから、そんな大変なときにどう対応していくか、世界中がその対策を学ぶべきだと思います。実際、日本に来て日本は大丈夫だと考えました。私たちは日本人から学ぶことができますので、私はネパールに帰ったら、日本から学んだことをネパールに伝えていきたいと思っています。どうもありがとうございました。



(次ページに続く)

【ふりかえりシートより】

- ・世界の多くの国から日本に支援をいただいたことに驚きました。震災の後、放射能の関係もあって、日本から外国の人が去りましたが、今日の留学生の方々の言葉をとても嬉しく思いました。
- ・こんなにもたくさんの国々から支援を受けていたことを知り驚きました。支援の額は決して多くはないかもしれない国でも、その気持ちは私たちの元にきちんと届いている。そのためにも、こういった情報を知ることが大事だと思いました。
- ・世界地図のほとんどに色がぬられていました。それを見て世界中が日本に支援の手を差し伸べていたことがよく分かりました。このようなことはニュースでは伝えてくれません。今日知って驚きました。
- ・2011年、人道支援で大きな支援をもらったベスト5に日本が入っているのに驚いた。後は、途上国ばかりなのに。本当に小さな国、貧しい国からも支援があっているのに感動しました。
- ・世界中の人々が東日本大震災の被災者へ支援、励ましの言葉をおくってくれた中で、果たしてこれから自分が何をできるのだろうか、震災から一年を迎えた今、もう一度考え直したい。
- ・世界のほとんどの国から様々な形での支援があっていることを知りました。困ったときはお互い様。これからは世界の出来事にも関心を持って自分にできることは何かを考えていきたいと思います。
- ・外国から日本にたくさんの愛をもって寄付をいただいている。そんな目で感謝の気持ちをもって世界中の災害を見ていこうと思った。

募金贈呈式

3月9日(金) 事務局にて

佐賀市立城西中学校生徒会の奉仕委員会では、3年生からの計画を引き継いで2月いっぱいまでユニセフ募金に取り組みました。各クラスの奉仕委員がクラスに1つずつ募金箱を設置し、協力の呼びかけを行いました。

本日、生徒会3名と引率の先生2名が見えて、集まった募金20,150円が佐賀県ユニセフ協会に贈呈されました。全額、アフリカ干ばつ緊急募金へ充てさせていただくことになりました。ずっしりと重たい募金箱を持って、生徒会代表の方が「みんなの気持ちが世界の子どもの役に立てるといことが嬉しいです。」と話してくれました。】



募金贈呈式

3月5日(月) 上峰町立上峰小学校

上峰小学校ボランティア委員会の皆さんは、毎日募金箱を持って校内を周り、呼びかけを行っています。本日、集まった募金25,497円および使用済み切手が佐賀県ユニセフ協会に贈呈されました。当協会からの「ユニセフはどのような活動をしているか知っていますか?」という問いかけには、「紛争などで苦しんでいる子どもたちを支援している」と的確な答えを返してくれました。また、集まった募金でどのような支援ができるかということを具体的に説明するために、プランピーナッツ、ビタミンA、経口補水塩についてお話をしました。

ユニセフグッズの頒布&募金活動

3月3日(土)、4日(日) 第36回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて(神崎中央公園体育館)

トヨタ紡織九州ハンドボール部「レッドトルネード」は、日本ハンドボール1部リーグに所属しています。地域に密着し「強く愛されるチーム」を目指して日々の練習に取り組んでいます。社会貢献活動も活発で、ユニセフ支援活動もその一環として取り組んでいただいています。

第36回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場においてユニセフグッズ頒布、募金活動をしました。強風の3日、雨の4日とお天気には恵まれませんでした。3日は「神崎市民応援DAY!」で市民の方々がレッドトルネードの応援に駆け付けられました。4日は福岡を拠点に活動しているアイドルユニット「Qun Qun」の皆さんが応援に駆けつけました。

試合後にレッドトルネードの皆さんが募金箱を持ってユニセフ募金への協力を呼び掛けました。4日はQun Qunの皆さんも飛入りで募金箱を持って募金活動に参加してくださいました。2日間の募金額は17,412円、グッズの頒布額は1,300円でした。

また、トヨタ紡織株式会社より13,370円の募金がありました。ありがとうございました。



神崎市民の皆さんの応援



「Qun Qun」も飛入りで募金箱を持って

ユニセフ募金贈呈式

3月1日(木) みやき町立中原小学校

中原小学校ボランティア委員会の皆さんは、全校の皆さんにユニセフ募金協力をお願いをしました。募金贈呈に先立ち、DVD「ユニセフと地球の友だち」の視聴をして、世界の困難な状況下にある子どもたちのことを知り、また、水がめで水運び体験もしました。その後、「世界の困っている子どもたちのために役立ててください。」と15,606円のユニセフ募金の贈呈がありました。

中原小学校PTAでは「制服リサイクル活動」に取り組んでいます。平成23年度分の売上げ21,350円を「東日本大震災復興支援に役立ててください。」と贈呈がありました。



児童会から世界の子どもへ



PTAから東日本大震災被災地の子どもへ

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

2月11日(土) イオンモール佐賀大和(佐賀市大和町)



毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれます。この日は、お客さまがレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れていただくと、お買い上げ金額合計の1%が地域ボランティア団体などに寄贈されます。

佐賀県ユニセフ協会も投函BOXを用意していただいております。イオン・デーのこの日に、キャンペーンの輪を広げるためのイベントに参加しました。ユニセフへのご協力を呼びかけると多くのお客様がレシートを入れてくださり、投函BOXは「幸せの黄色いレシート」でいっぱいになりました。皆様ありがとうございました。

ユニセフ出前授業

テーマ:「平和を考えよう」

1月11日(水)	神崎市放課後子ども教室ドリームパーク	神崎市脊振小学校(1年~6年、30人)にて
2月1日(水)	神崎市放課後子ども教室ドリームパーク	神崎市千代田中部小学校ゆめ組(1年~4年、26人)にて
2月8日(水)	神崎市放課後子ども教室ドリームパーク	神崎市千代田中部小学校ほし組(1年~5年、25人)にて



- ・神崎市ドリームパークは、放課後の小学校を子どもの安心安全な居場所として開放し、地域の大人たちの指導のもと、スポーツや文化活動などのさまざまな体験を通して、心豊かでたくましい子どもを育むことを目的としています。
- ・今回の出前授業は「平和の旅へ合唱団・さが」とのコラボレーションでした。合唱団のみなさんは、「地雷ではなく花をください」(絵・葉祥明、文・柳瀬房子)の大型紙芝居や平和を願う歌を素晴らしいハーモニーで歌い、子どもたちに平和の大切さを伝えました。佐賀県ユニセフ協会は、地雷のレプリカを展示して、戦争が終わってもなお地雷の被害にあう子どもたちがいることをお話しました。
- ・学習の後、子どもたちは「地雷って怖いものだと分かりました。」「今も20分に1人の割合で地雷の被害にあっている人がいるのを初めて知りました。家に帰っておうちの人に話します。」等と話していました。

ユニセフ出前授業

1月25日(水) 三潞郡大木町立大溝小学校
テーマ:「ユニセフとわたしたちにできること」

- ・大溝小学校6年生(83人)のみなさんは総合的学習の時間に「何かができる～自分たちができるボランティア～」という課題で学習しています。社会科との関連で「ユニセフのはたらき」と「自分たちができるボランティア」について話し合いました。
- ・デヴァナガリ文字で書かれた「水」「薬」「毒」の看板の中から「薬」を探すワークをして、文字を読めることの大切さを体験し、ユニセフは「すべての子どもに教育を」を活動の大きな柱の一つとしていることをお話しました。そのあと、「ユニセフと地球のともだち」を視聴しユニセフの活動について学び、自分のことと関連付けて考え、自分たちができることについて話し合いました。



薬屋さんをさがそう!



「ユニセフと地球のともだち」の視聴

【学習を終えて】

- ・文字が読めるということは命を守るためにも大切だということが分かりました。なので、これからしっかり勉強しなければならないと思いました。
- ・朝起きてご飯を食べて学校に行って、家に帰ってゲームをして…と、当たり前のように思っていたけど、貧しいために働かなければならなくて学校に行けない子どもがたくさんいることを知りました。ユニセフは子どもが学校に行けるように活動をしているので僕も何かしたいと思います。
- ・4秒に1人の割合で子どもたちがなくなっているなんて驚きました。ユニセフが子どもの命を守るために予防接種などの活動していることが分かりました。
- ・書きまちがいのはがきが役に立つことを知ったので、これを集めるのは自分にもできると思いました。